

# 日 ASEAN 新時代への事業改革



日本アセアンセンター(港区新橋)



国際機関 日本アセアンセンター  
事務総長 藤田正孝

世界において ASEAN 地域ほど、ダイナミックに成長している地域はない。同地域は 1990 年から 2016 年までの間、名目年率平均約 8% の経済成長を記録しており、1980 年代に 10 対 1 であった日本と ASEAN 全体の GDP は、現在では 2 対 1 ほどまでに縮まった。貿易、投資、観光の分野をみても、ASEAN 諸国における日本のプレゼンスは、重要性は変わらないものの統計上では相対的な縮小も見られる。他方、日本における ASEAN 諸国のプレゼンスは拡大する一方と言えよう。

## 「持続可能な開発」視点を全事業に

日本アセアンセンターは、日本と東南アジア諸国間の「心と心の触れ合う信頼関係」と「対等なパートナーシップ」等を謳い 1977 年に発表された『福田ドクトリン』を具現化するために、81 年に日本と ASEAN 諸国との協定によって設立された。以来、日本と ASEAN との貿易、投資、観光の分野における双方のパートナーシップ強化と人物交流の促進を目的に活動してきた。また、日 ASEAN 関係の進展を踏まえ、時宜にかなった事業を実施するべく事業改革を進めている。

事業改革として、センターでは 2015 年 9 月の国連総会における『持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』の採択を受け、開発における世界的な潮流となっている「持続可能な開発」の視点を全ての事業に盛り込んだ。能力開発や政策志向を重視して事業を策定し、各国に政策提言をすることを念頭に、新しい分野での事業にも着手した。

貿易促進事業では、サービス貿易および下請け

やライセンス契約などの新たな形態での貿易が重要性を帯びてきていることを踏まえ、それぞれの活動からの利益を最大化し、リスクを最小限にとどめるための政策提言を念頭に、加盟国政府と協力し状況の把握と研究調査を行う。

投資促進事業では、これまで一方的な情報提供が中心だった活動を、16 年度から ASEAN 諸国並びに日本の政府関係者とビジネス関係者との双方向の二国間対話を実施し、各国の投資環境改善を模索するための機会を提供している。

観光促進事業は持続可能な観光を目指し、アクセシブル・ツーリズム<sup>\*1</sup>とインタープリテーション計画<sup>\*2</sup>を通じて ASEAN 諸国の観光業界関係者向けの人材育成事業に力を入れる。

\*1：アクセシブル・ツーリズム：高齢者や障害をもった方を含め、全ての人々が楽しめるように配慮された観光（ユニバーサル観光）。

\*2：インタープリテーション計画：観光資源を保全しながら来訪者サービスの向上を図るコミュニケーション計画の立案。

## 人物交流をよりいっそう促進

交流事業では、持続可能な開発のための女性のエンパワーメントおよびビジネス交流の拡大を目的に、特に女性起業家に対し、ビジネスチャンスとネットワークを広げるための機会を提供する。また、こうした独自事業の他に、所掌 4 分野における外部機関主催のイベントを共催／後援。日外協主催「日本語スピーチ発表会」は、人物交流の促進というセンターの活動趣旨に合致するものとして、16 年度から共催している。

17 年度は、ASEAN 設立 50 周年の佳節を盛り上げるべく様々な事業を実施しているところで、センターの活動にご注目いただきたい。 ■